

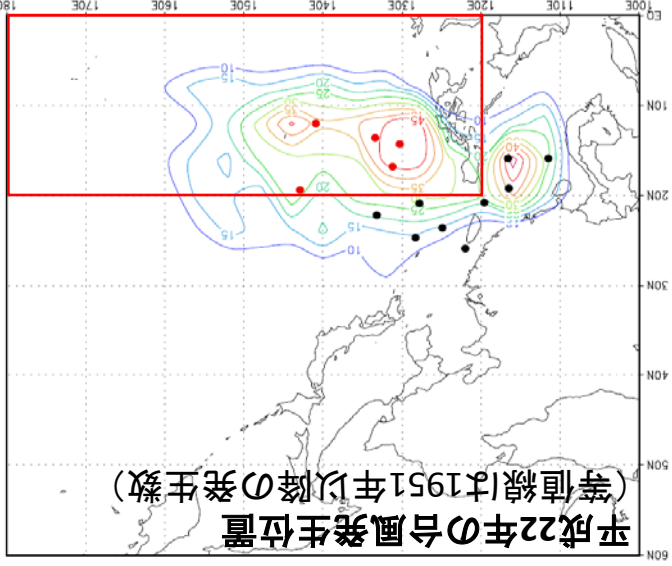
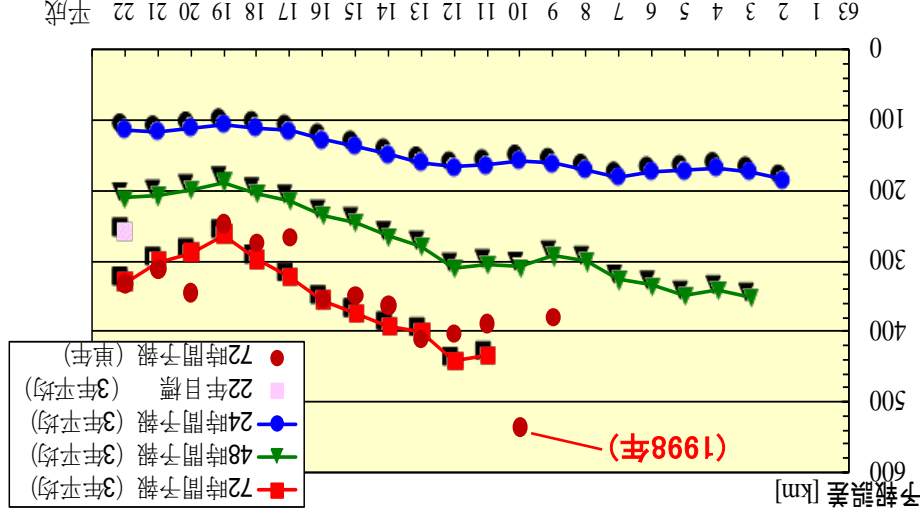
# 台風予報の精度(台風中心位置の予報誤差)

## 【H22年の目標】

台風中心位置の72時間先の予報誤差\*を、H22年までにH17年と比べ約20%改善し、260kmにする。  
 \* 当該年を含む過去3年間の平均

## 【H22年の状況】

平成22年の測定値は330kmと、平成21年の測定値301kmより悪化。  
 平成22年は特に台風の発生が例年に比べて北の緯度の高い海域で多かったこと、このため、勢力が弱いまま転向・加速するものが多かったことなど、台風進路予報の誤差を増大させる特別な要因が重なったことが原因。  
 前年と比較して改善が見られなかったものの、過去の傾向をみるとその値は減少。



予報誤差が大きかった台風は、高い緯度で発生後すぐに加速・転向した。  
 フリビンの東方海上(北緯20度以南、東経120度以東)での発生数は5個(年平均値\*16.1個)と1951年以降で1998年の4個に次いで少なく、平均発生緯度は北緯18.9度(年平均値\*16.2度)、寿命は4.1日(同5.2日)。( \*1971-2000年)

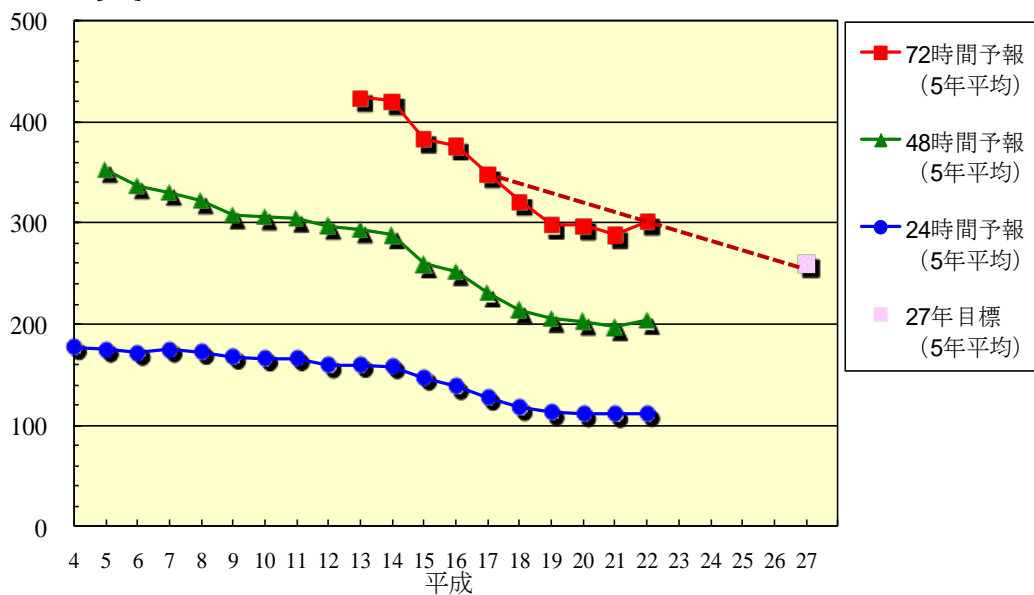
# 台風予報の精度(台風中心位置の予報誤差)

## 【新規目標】

台風中心位置の72時間先の予報誤差\* をH27年までに260kmにする。

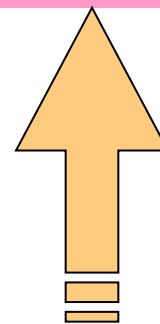
\* 当該年を含む過去5年間の平均

予報誤差 [km]



(目標値)

260km(H27年)



数値予報モデル等の改善

302km(H22年)

- ・災害による被害の軽減
- ・効果的、効率的な防災対策

72時間予報の誤差は予報技術の改善を代表する。

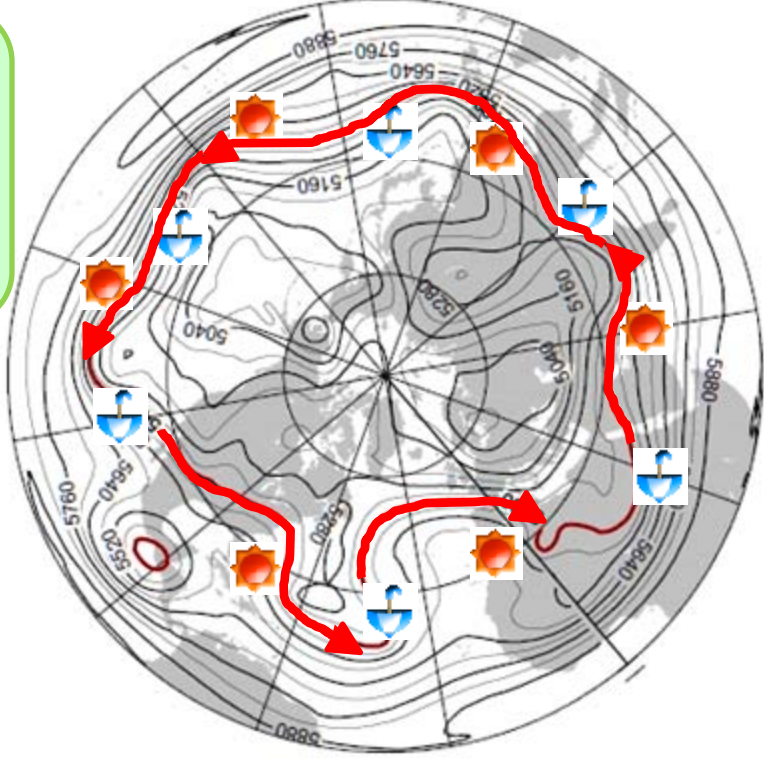
# 数値予報モデルの精度

•500hPaは地球大気のほぼ中間であり、この流れが大気全体の流れを代表し、地上の天気と密接に関係している

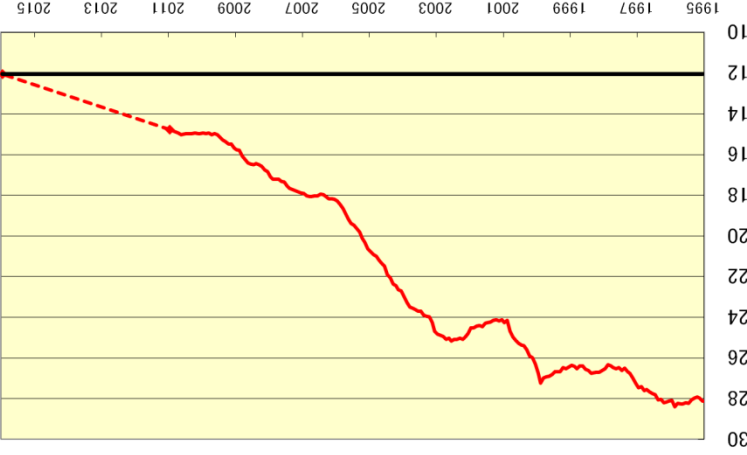
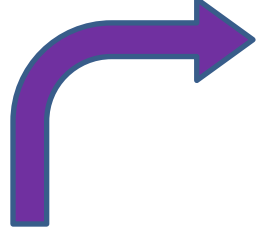


地球全体の大気を対象とした数値予報モデルの2日後の500hPa高度の予測誤差を、平成27年末までに平成22年(実績値14.8m)に比べ約20%改善する。(目標値12m)。

500hPa予想天気図と天気  
赤矢印は大気の流れを示す



天気予報・防災気象情報の  
精度向上



500hPa高度の48時間予報の誤差(m)の推移  
太実線は目標値

# 地震津波情報の迅速な発表(地震発生から地震津波情報発表までの時間)

## 地震発生

(数秒～  
数十秒後)

### 緊急地震速報

(平成18年8月1日より先行提供、  
平成19年10月1日一般提供開始)

震度速報 (震度3以上)

津波注意報・津波警報\*1

震源に関する情報\*2

津波情報

震源・震度に関する情報

(震度3以上)

各地の震度に関する情報

(震度1以上)

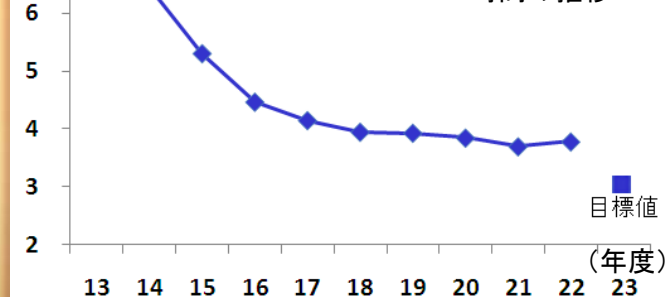
津波情報

約5分後

### 【目標】

地震\*3発生からこれら地震津波情報発表までに要する時間を平成23年度までに3分以内とする。

(分) 地震発生から地震津波情報発表までの時間の推移



## 効果

### 迅速で的確な初動体制の確立



\*1 緊急地震速報の技術を活用し津波予報の迅速化可能時には、最速2分で発表。

\*3 地震発生後10分以内に津波が来襲することのある、

\*2 津波なしの場合に発表

沿岸から100km以内で発生する地震を対象とする。

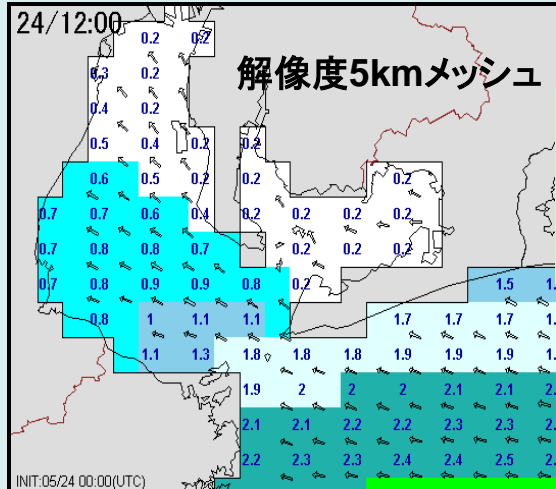




# 沿岸波浪情報の充実・改善

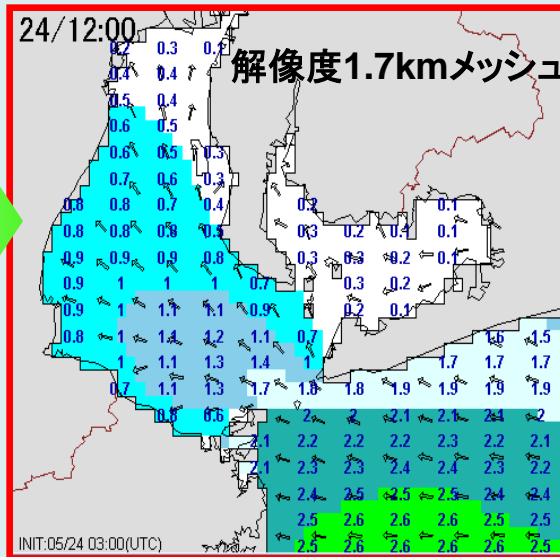
～特定海域を対象としたきめ細かな波浪予測情報の提供～

従来の沿岸波浪モデルによる  
波浪の予測



技術開発で  
きめ細かな  
波浪予測情報  
を提供

浅海波浪モデルによる  
特定海域の波浪の予測



- ・高い解像度で詳細な海岸地形に対応
- ・水深の浅い海域での波の変形を考慮
  - －波の屈折
  - －碎波 (海底摩擦)
  - －波と波の相互作用

予測対象海域

**現状**

(平成22年度)

予測対象海域：5

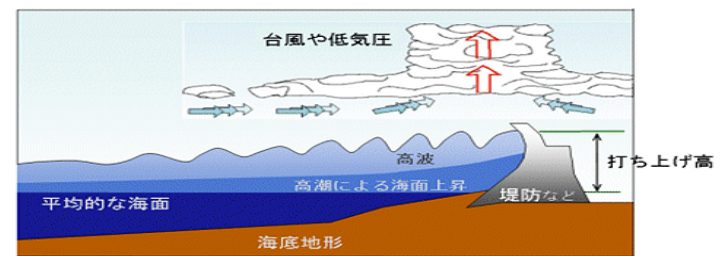
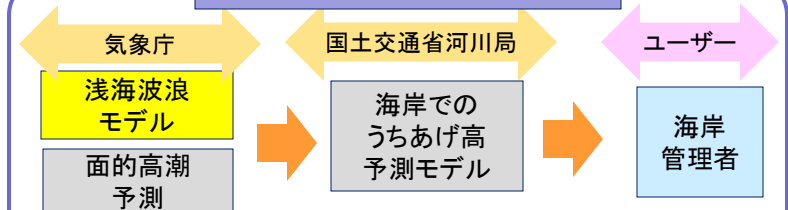
- ①東京湾
- ②伊勢湾
- ③播磨灘
- ④大阪湾
- ⑤有明海

予測対象  
海域の増

**目標値**

- ・平成23年度に7海域以上追加海域
  - ⑥新潟海岸
  - ⑦仙台湾南部海岸
- ・平成24年度に11海域以上その他の海域については実施に向け調整中

浅海波浪モデルの活用



- ・内海・内湾における沿岸防災
- ・海運・漁業の安全確保